

高美小学校授業だより

R7.5.12.

6年1組の算数の授業におじゃましました。

★既習の内容を想起して未習の内容に取り組む★

新しい単元「分数×整数」の一時間目でした。まずパソコンを使ってテレビに映し出されたのは、5年生で学習した、小数×整数の文章問題でした。子どもたちは難なく式と答えを導き出すことができました。そのあと今日取り組む問題を全員で確認しました。既習の内容と未習の問題を並べてみることで、子どもたちは「あ、これ数字が変わっただけか」と簡単に気付くことができました。授業の初めの数分をどのように使うかによって、本時で扱う内容に目が向きやすく、「これだったらできるかも」という空気を作ることができます。

★吹き出しからめあてを★

既習の内容を使って式をたてることのできた子どもたちは、今まで見たことがない「分数×整数」をどのように解けばよいかを考えました。「吹き出し」を使って子どもたちが気づいたことや考えたことを書かせておられました。吹き出しでは、

- ① どの順番に吹き出しを書いたか番号を書いておく。
- ② 思ったこと・気づいたこと→考えたことの順で書く。

の2点を確認して取り組んでいました。吹き出しを交流する際には、まず「思ったこと・気づいたこと」を発表させ、次に「考えたこと」を発表させておられました。出てきた吹き出しを、関連させながら板書をされていたので、子どもたちの思考が整理されていくようでした。大切なポイントに気づいている子について机間指導の中でチェックをしておき、発表の場面で出ない場合は、先生のほうから声をかけて発表してもらおうという形をとっておられたので、様々な考えを交流することができました。子どもたちが書いている内容を、机間指導中に評価し、指導に活かす。指導と評価の一体化です。

吹き出しの交流をした後に、「何の勉強をする？」と投げかけ、めあてをたてました。吹き出しである程度自分たちで見通しをもつことができていたため、スムーズにめあてをたてることができました。

★自分の考え→全体交流★

個人で考える時間では、「書き方は自由」「わかるように説明」「これまでに習ったことをつかう」という点について確認しました。書いたらパソコンで写真を取り、ロイロノートで提出します。これにより、後の交流がスムーズになりました。全体交流では何人かの子に発表をしてもらい、考え方を共有しました。答えは同じでも、解き方がいろいろあることと、その中でもより早く正確に解くことができる方法について全体で確認しました。

～まとめ～

めあてをたてる前に、吹き出しで子どもたちの現在地を確認することは大切だと感じました。未習内容を学習する前に、既習内容を確認することで「難しい」と感じる子がぐっと減るのではないかと思います。授業の終わりがけに、子どもたちが「これってもしかして次こんなことするのかな」とわくわくしている姿が見られたのが印象的でした。堀本先生、6年1組のみなさん、ありがとうございました。

